

Techpoint, Inc

2019年12月期 第3四半期決算説明資料



証券コード: 6697
東証マザーズ
2019年11月



I 2019年12月期 第3四半期決算の概要

II 2019年12月期業績予想の概要

III 今後の成長戦略

IV 参考資料





I 2019年12月期 第3四半期決算の概要

(注) 当社の連結財務書類は米ドルで表示されています。本書において円で表示している金額は、便宜上1米ドル=107.92円で換算された金額であります。





3Q単独（7月～9月）、売上高は過去最高 営業利益は91%増、純利益は158%増に

1. 当3Q単独の売上高は、9.6百万米ドル（1,037百万円）
 - (i) 前年同期比10.9%増：0.9百万米ドル（102百万円）の増加
 - (ii) 2Q単独の売上高に対し、34%増：2.4百万米ドル（263百万円）の増加
2. 当3Q単独の営業利益は、1.6百万米ドル（174百万円）
 - (i) 前年同期比91%増：0.8百万米ドル（83百万円）の増加
 - (ii) 2Q単独の営業利益に対し、367%増：1.3百万米ドル（137百万円）の増加
3. 当3Q単独の車載の売上高は、3.1百万米ドル（330百万円）
 - (i) 前年同期比93.3%増：1.5百万米ドル（160百万円）の増加
 - (ii) 当社売上高に占める車載半導体比率は、32%へと上昇（前年同期：18%）
4. 当3Q単独の純利益は、1.5百万米ドル（157百万円）：
 - (i) 前年同期比158%増：0.9百万米ドル（96百万円）の増加
 - (ii) 2Q単独の純利益に対し、335%増：1.1百万米ドル（121百万円）の増加
5. 当3Q単独株式報酬費用0.3百万米ドル（36百万円）を除き、期間実効税率15%の税効果考慮後の当3Q単独純利益（Non-GAAP指標）は、前年同期比61.5%増の1.7百万米ドル（187百万円）





3Q累計期間（1月～9月）、売上高は1.7%減も、 営業利益は14%増、純利益は5.2%減

1. 当3Q累計の売上高は、21.8百万米ドル（2,354百万円）
(i) 前年同期比1.7%減：0.4百万米ドル（41百万円）の減少
2. 当3Q累計の営業利益は、1.2百万米ドル（134百万円）
(i) 前年同期比14%増：0.2百万米ドル（17百万円）の増加
3. 当3Q累計の車載の売上高は、7.4百万米ドル（804百万円）
(i)前年同期比109%増：3.9百万米ドル（419百万円）の増加
(ii)当社売上高に占める車載半導体比率は、34%へと上昇（前年同期：16%）
4. 当3Q累計の純利益は、1.2百万米ドル（127百万円）
(i) 前年同期比5.2%減：0.1百万米ドル（7百万円）の減少
5. 当3Q累計株式報酬費用1.0百万米ドル（110百万円）を除き、期間実効税率15%の税効果考慮後当3Q累計純利益（Non-GAAP指標）は、2.0百万米ドル（220百万円）
6. 当社顧客メーカーの中国Hikvision社が、10月9日付で米国商務省産業安全保障局による企業リストに加えられ、米国輸出管理規則に服する物品の取引には米政府の許可が必要となったものの、現在のところ、当社の製品はこれに服するものではなく、出荷に問題はないことを確認済み。一方、今後の米国連邦政府の政策変更等により、当社製品の輸出について何らかの規制が及ぶ可能性あり。（10月8日付、任意開示済み）





売上高は微減も、営業利益と税引前四半期純利益は利益率向上により、増益で推移

単位：千米ドル（千円）

科目	2018/12期 3Q累計実績		2019/12期 3Q累計実績		
	金額	構成比	金額	構成比	増減率
売上高	22,190 (2,394,745)	100%	21,809 (2,353,627)	100%	△1.7%
営業利益	1,092 (117,849)	4.9%	1,246 (134,468)	5.7%	14.1%
税引前四半期 純利益	1,222 (131,878)	5.5%	1,287 (138,893)	5.9%	5.3%
四半期純利益	1,238 (133,605)	5.6%	1,174 (126,698)	5.4%	△5.2%
四半期純利益 【Non-GAAP】	2,171 (234,294)	9.8%	2,042 (220,373)	9.4%	△5.9%





第3四半期単独は、第2四半期単独に続いて増収増益で推移

単位：千米ドル

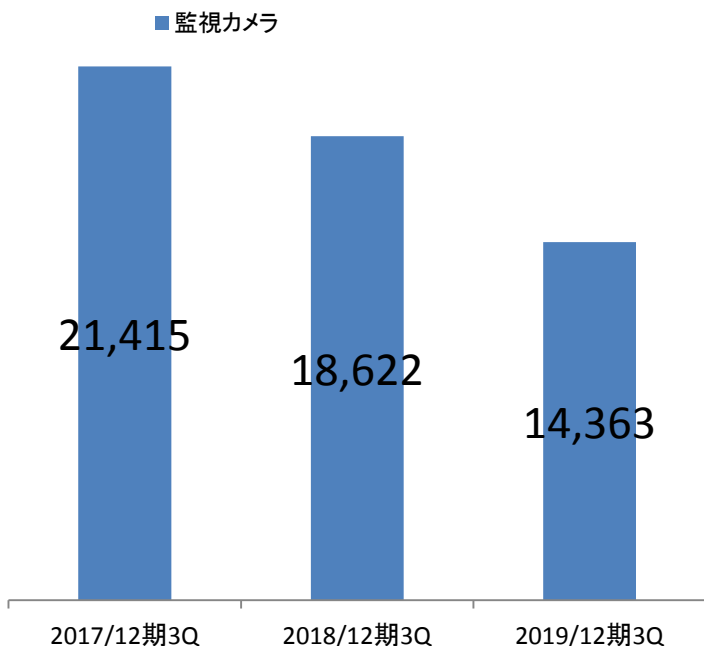
科目	2018/12期実績				2019/12期実績							
	1Q 金額	2Q 金額	3Q 金額	3Q 累計	1Q 金額	増減率	2Q 金額	増減率	3Q 金額	増減率	3Q 累計	増減率
売上高	7,053	6,470	8,667	22,190	5,021	△28.8%	7,175	10.9%	9,613	10.9%	21,809	△1.7%
営業利益	△64	312	844	1,092	△710	-	345	10.6%	1,611	90.9%	1,246	14.1%
税引前四半期 純利益	325	147	750	1,222	△723	-	397	170.1%	1,613	115.1%	1,287	5.3%
四半期純利益	473	201	564	1,238	△618	-	335	66.7%	1,457	158.3%	1,174	△5.2%
四半期純利益 【Non-GAAP】	721	379	1,071	2,171	△332	-	644	69.9%	1,730	61.5%	2,042	△5.9%



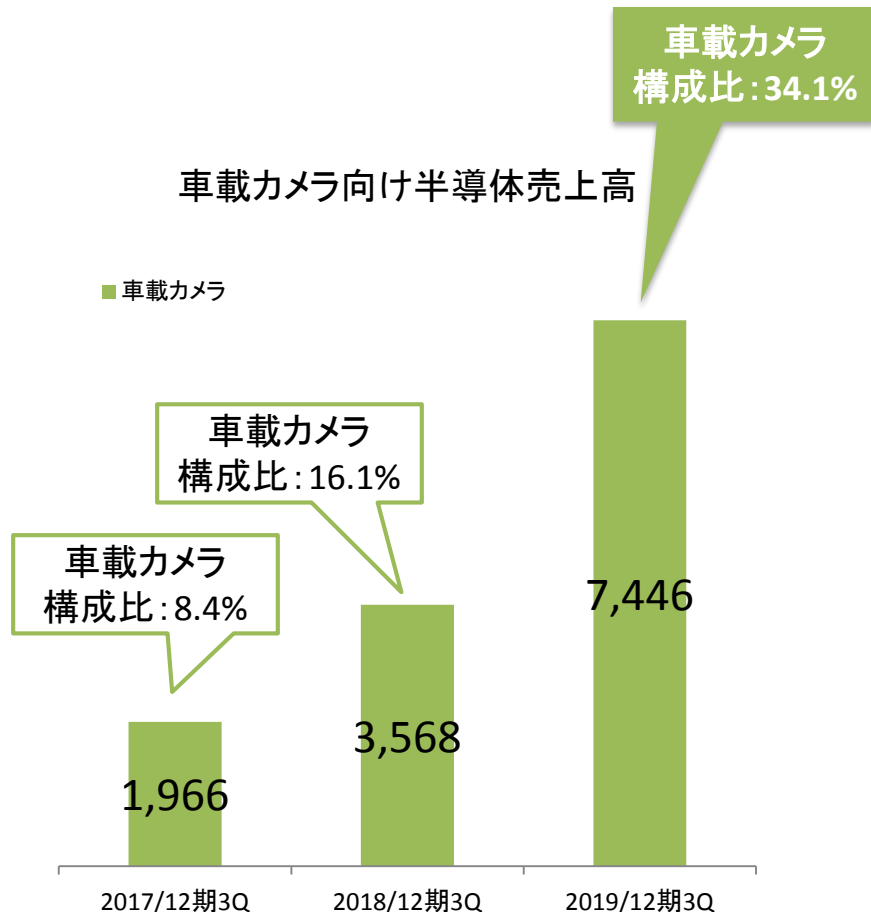


車載カメラ向け半導体が好調、売上高構成比は34.1%に

監視カメラ向け半導体売上高



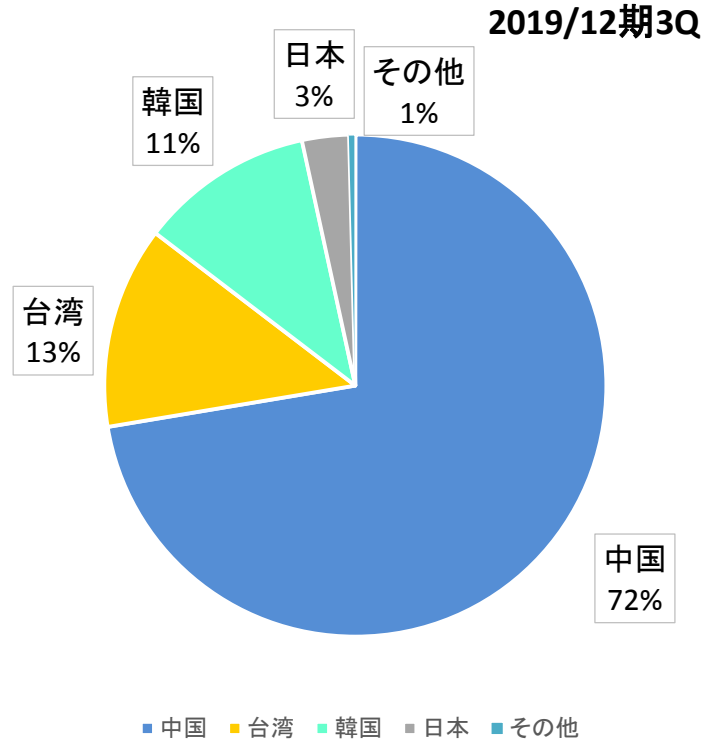
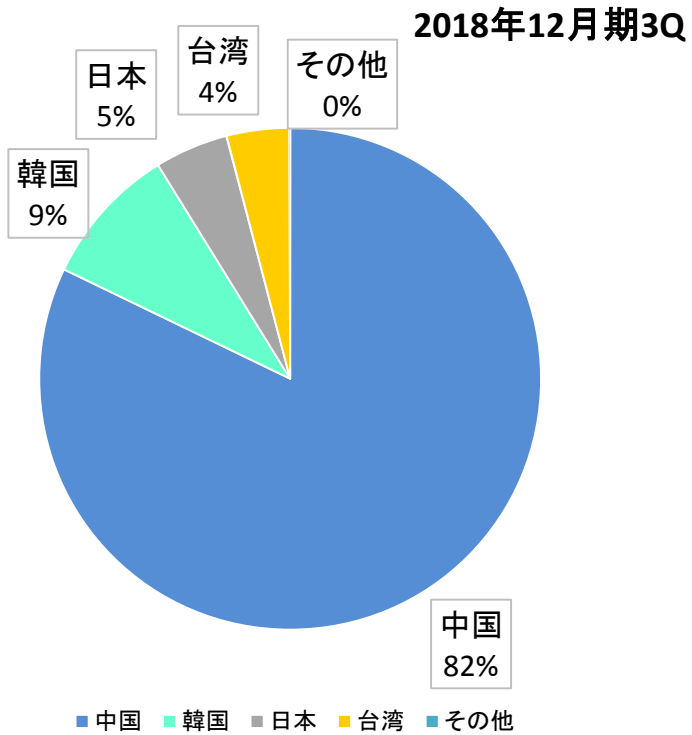
車載カメラ向け半導体売上高



単位：千円



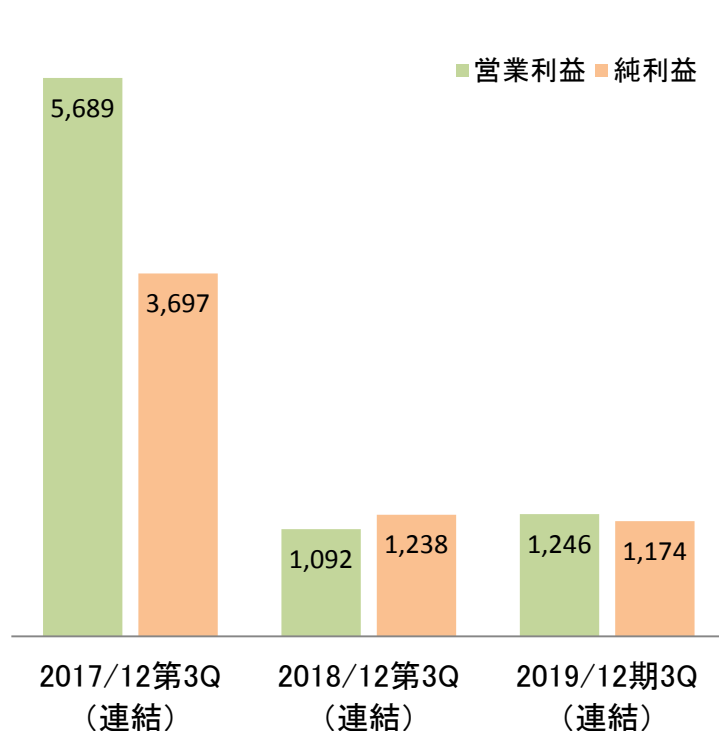
地域別の売上比率は前年同期と比べ、中国が減少、台湾・韓国が増加



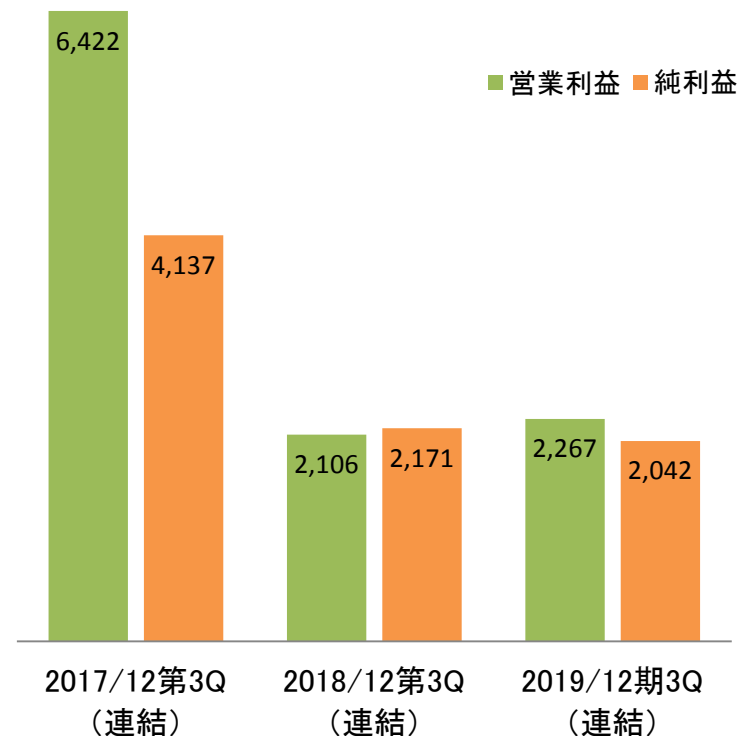


単位: 千米ドル

営業利益・四半期純利益 (GAAP)の推移



営業利益・四半期純利益 (Non-GAAP)の推移



2019年12月期3Qの9か月間の株式報酬費用は1,021千米ドル。これを除いた調整後営業利益 (Non-GAAP指標) は2,267千米ドル、期間実効税率15%の税効果考慮後の調整後当期純利益 (Non-GAAP指標) は2,042千米ドルとなります。





- 車載用4チャンネル映像受信用半導体「TP2824」が中国・パーチェリー社の自動車向け全方位モニター製品に採用決定



⇒ハイビジョン化と低コスト化の両立を実現。4チャンネル1080p（フルハイビジョン）/720p（ハイビジョン）などの表示が可能。
全方位モニターへの活用により、フルハイビジョン画質で自動車の周囲の状況をカーナビなどのディスプレイに表示





Ⅱ 2019年12月期業績予想の概要

(注) 当社の連結財務書類は米ドルで表示されています。
日本円表記は、便宜上1米ドル=107.92円で換算された金額を表示しております。





売上5.3%増、営業利益32.7%増と増収増益の見込み、 監視向けは中国市場冷え込みで需要減も、車載向けが92%増と伸長

- + 通期売上高は、対前期比5.3%増の33百万米ドル（3,533百万円）を予想。4Q売上高は、3Q売上高（過去最高）を上回る見込み（4Qは11百万米ドル前後を見込む）
- + 車載カメラシステム市場向け半導体の売上は対前年同期比92.4%増の9,183千米ドル（991百万円）と大幅増を予想。日本やアジアの車載機器メーカーによるリアカメラやカーナビ、ドライブレコーダーなどの採用件数増加。
- + 監視カメラシステムメーカーの多くが中国市場冷え込みによる売上減を予想しているため、監視カメラ向け半導体の売上高は対前期比で10.5%減を予想するも、車載カメラシステム向け半導体の売上高は増加の見込み。
- + 営業利益は、対前期比32.7%増の2,408千米ドル（259百万円）を見込む。車載カメラシステム向け半導体及び台湾、韓国における売上伸長がプラス要因に。
- + 当期純利益は、対前期比0.8%増の1,900千米ドル（205百万円）を予想。株式報酬費用控除前の当期純利益（Non-GAAP指標）は3,035千米ドル（327百万円）を予想。





通期売上高は、対前期比5.3%増の32,745千米ドル（3,534百万円）を予想

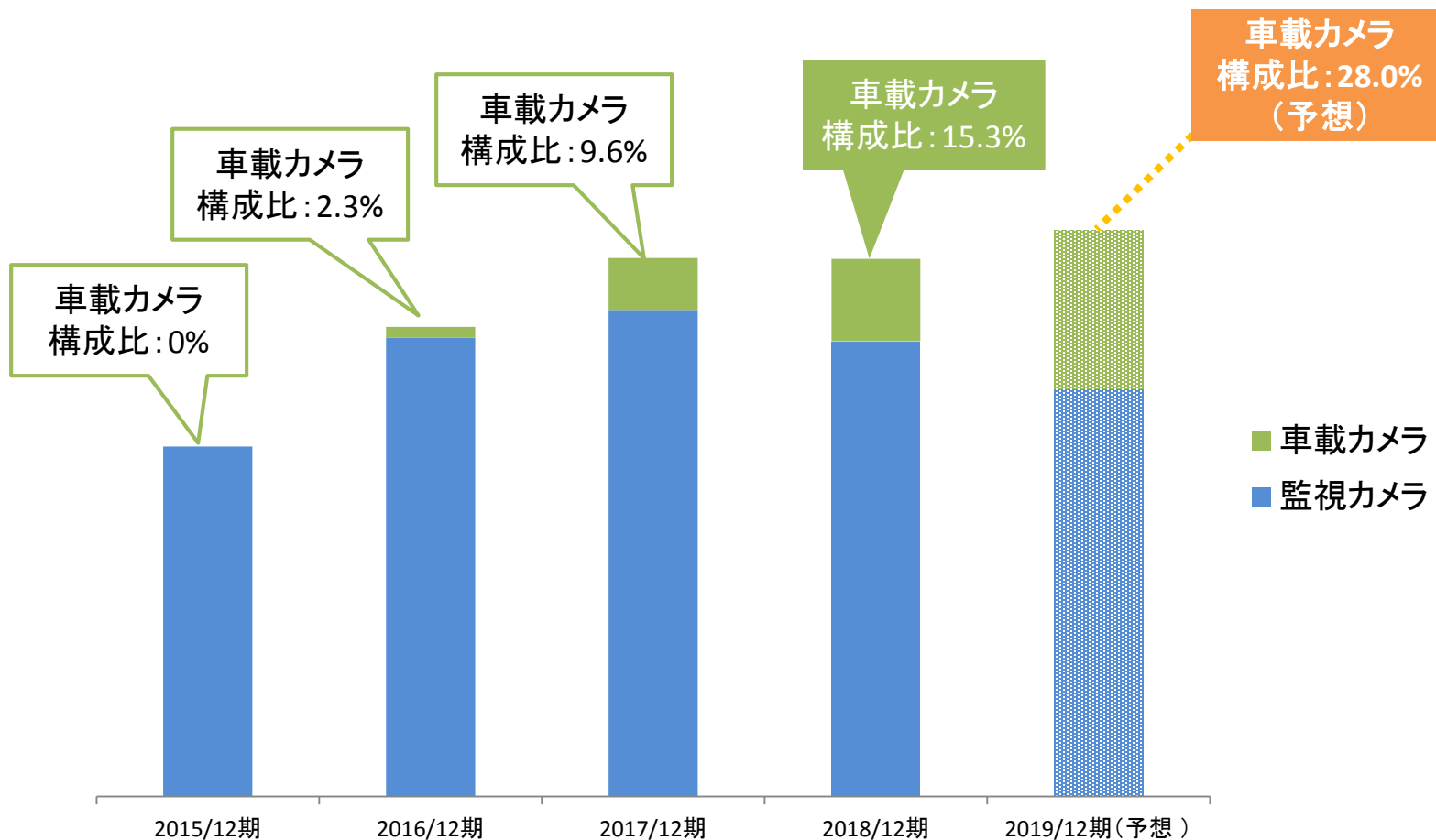
単位：千米ドル（千円）

科目	2018/12期実績		2019/12期 業績予想			
	金額	構成比	通期予想	構成比	増減	増減率
売上高	31,098 (3,356,096)	100%	32,745 (3,533,840)	100%	+1,647	+5.3%
営業利益	1,815 (195,875)	5.8%	2,408 (259,871)	7.4%	+593	+32.7%
税引き前当期純利益	2,044 (220,588)	6.6%	2,432 (262,461)	7.4%	+388	+19.0%
当期純利益	1,885 (203,429)	6.1%	1,900 (205,048)	5.8%	+15	+0.8%
当期純利益 (Non-GAAP)	3,143 (339,193)	10.1%	3,035 (327,537)	9.3%	△108	△3.4%





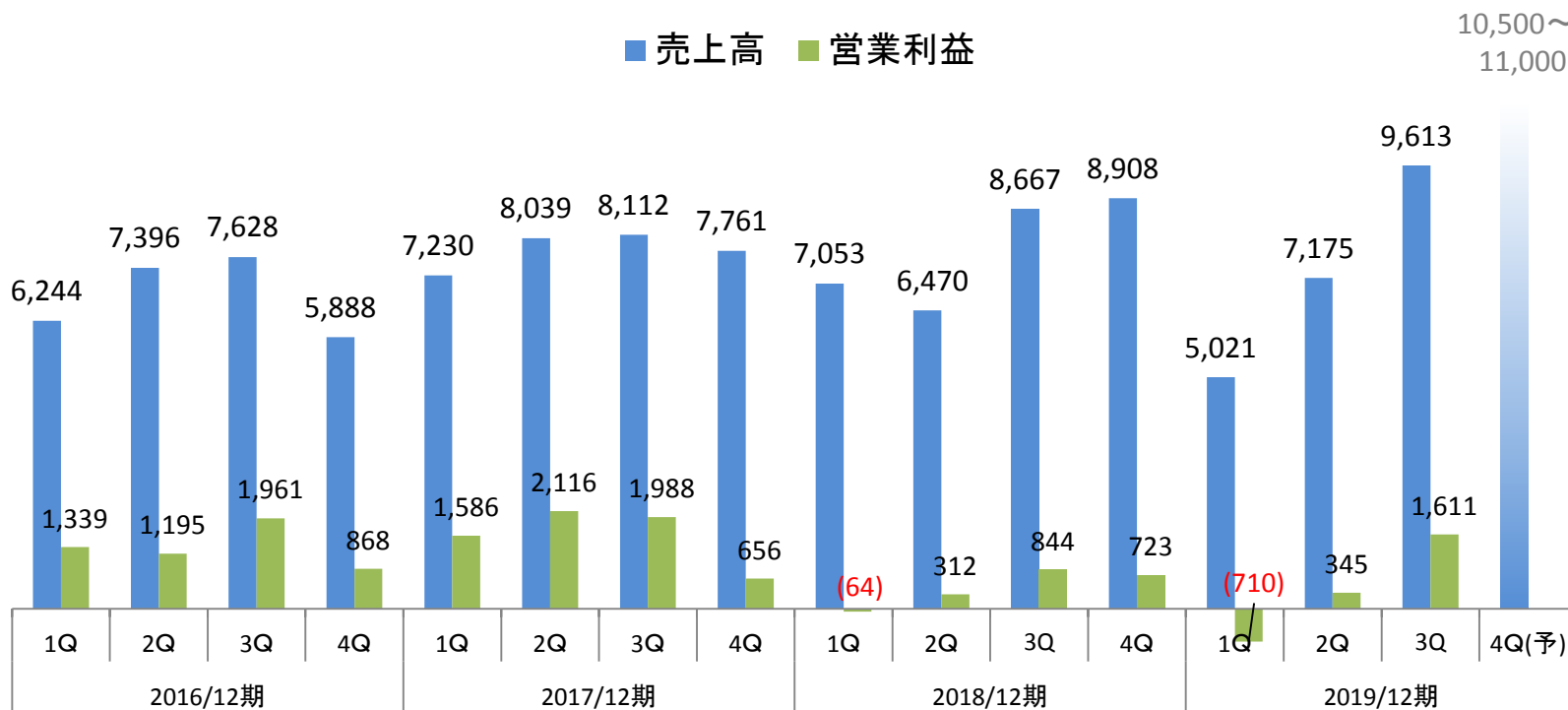
車載カメラ向け半導体の比率は、今期大幅な増加を予想





2019/12期3Qまで、ほぼ期初想定どおりの進捗
2Q以降、車載向けがけん引し、期末に向けて売上拡大トレンドで推移

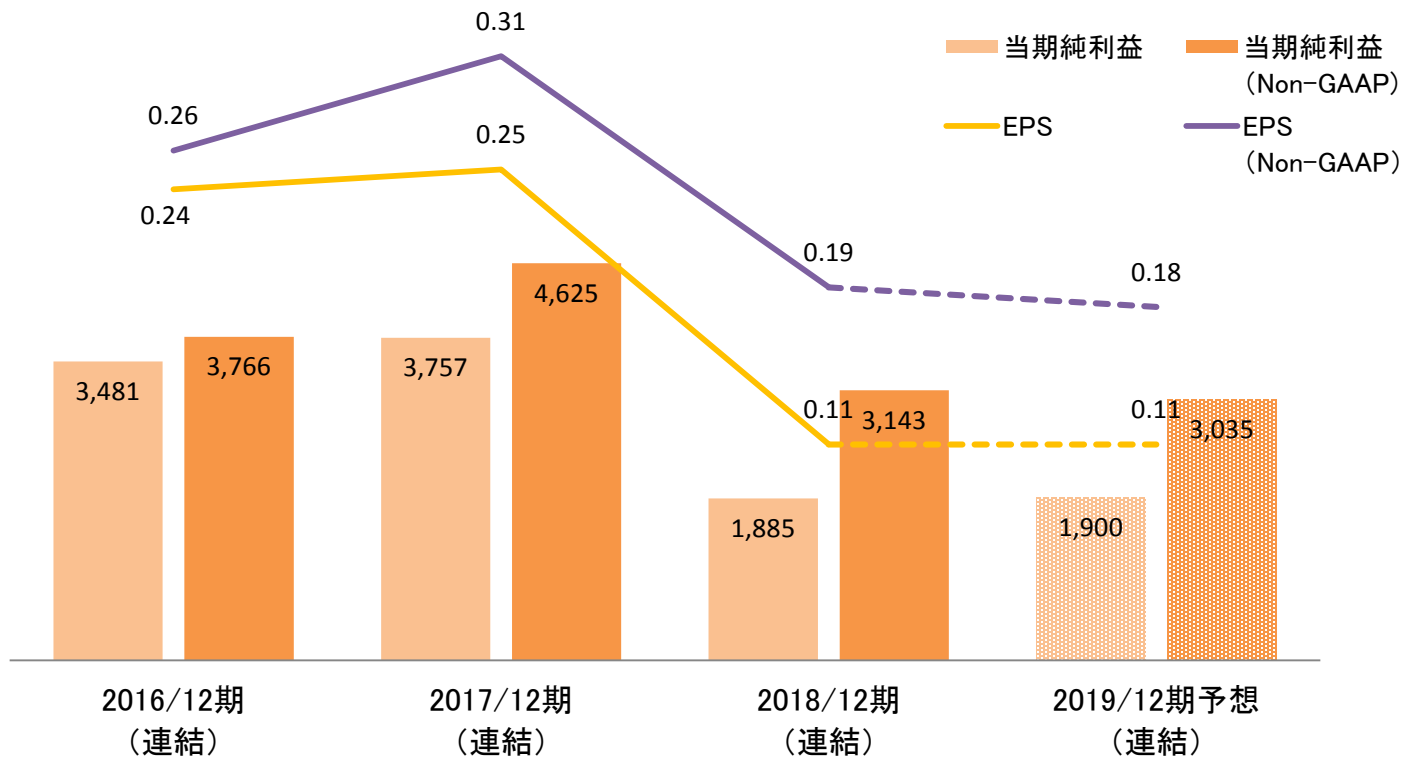
単位：千円





当期純利益 (GAAP・Non-GAAP) 1株当たり当期純利益 (GAAP・Non-GAAP) の推移

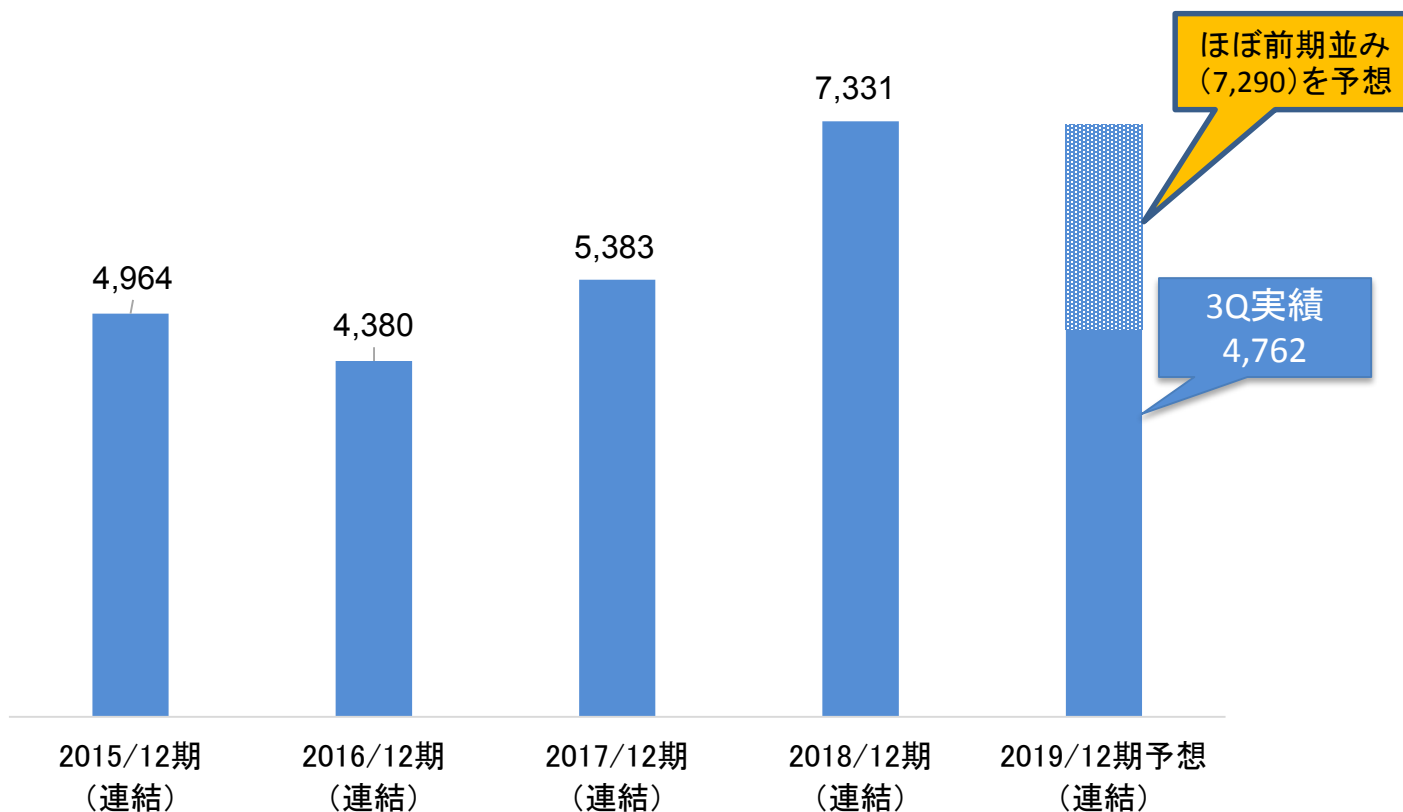
単位: 千米ドル
(EPSは米ドル)





2018/12期は成長加速に向け、研究開発費を前期比約4割積み増し
2019/12期の研究開発費は、ほぼ横ばいの見込み
⇒競争力強化・成長継続に向けた投資を積極的に実施

単位：千米ドル





19年度以降の成長エンジンとなり得る戦略商品 他社への競争優位をさらに大きくする狙い

開発案件の例

- 💡 CMOSイメージセンサー ⇒ 社内評価用5Mサンプルが完成。
更に高解像度の製品を開発中
- 💡 魚眼補正機能、WDR機能搭載ISP ⇒ サンプルング中
- 💡 音声対応のTxおよびRx用半導体製品 ⇒ 量産出荷中
- 💡 4k解像度に対応したISP+Tx ⇒ 量産出荷中
- 💡 液晶ディスプレイコントローラー ⇒ 量産出荷中

WDR : ワイド・ダイナミック・レンジ





- 車載用映像送信用半導体「TP38xxシリーズ」が台湾・REC社の自動車向け全方位モニター製品に採用決定



⇒映像信号処理機能（ISP：イメージシグナルプロセッサ）とHD-TVIの送信機能を1チップで実現。機器設計時の実装面積を削減し、車載カメラ設計メーカーにおける部材コストの低減に寄与。カメラを自動車の前後左右に4台搭載するなどにより、自動車の全方位モニター・システムに活用でき、安全運転支援システムの構築に貢献。





Ⅲ 今後の成長戦略





監視カメラシステム向け半導体

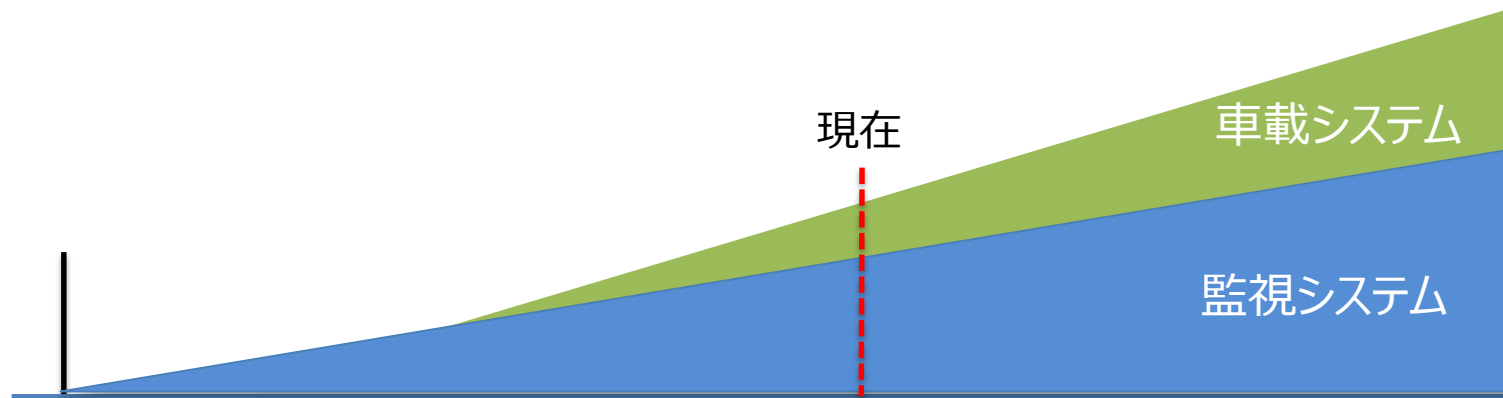


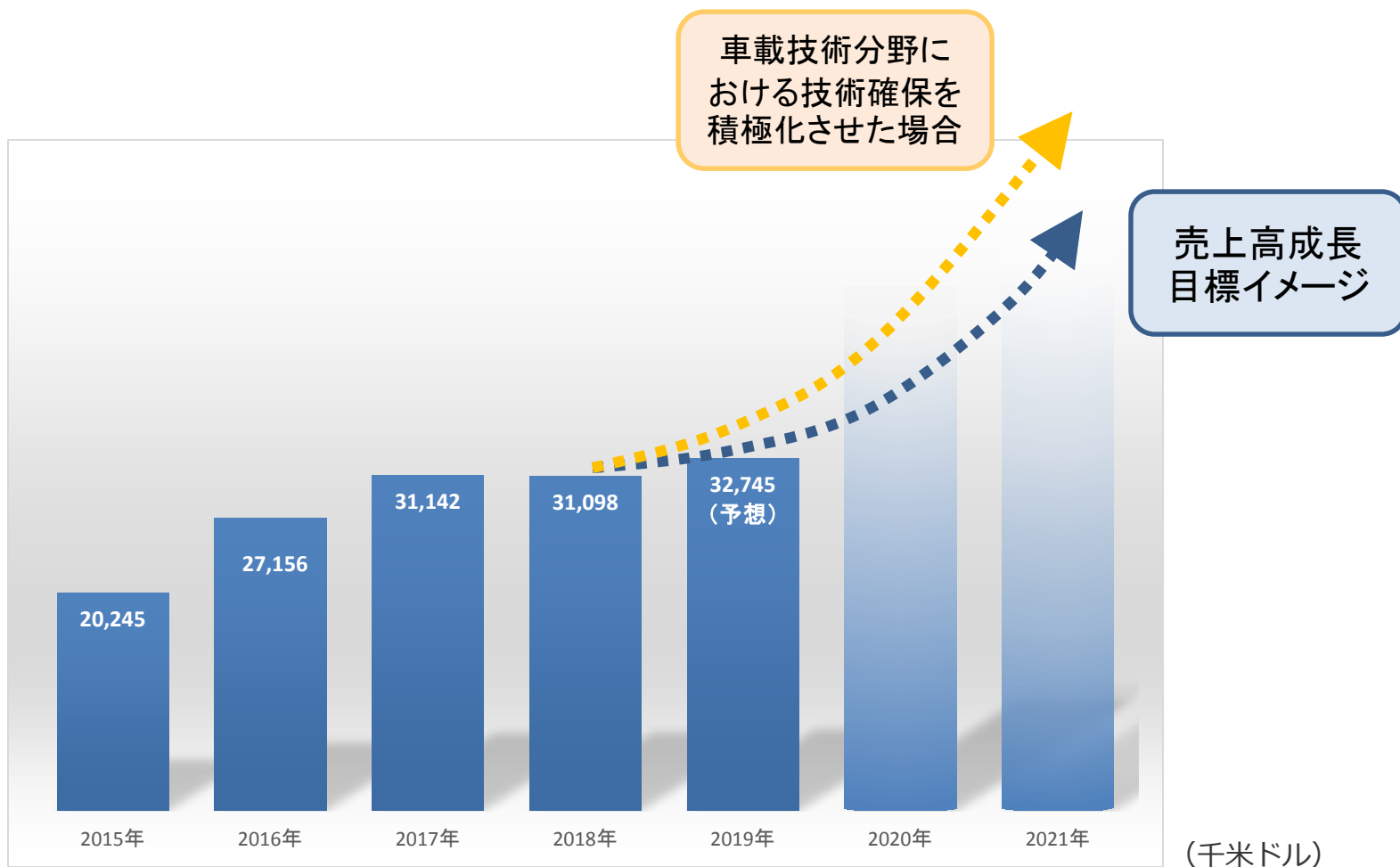
将来的には、CMOSセンサーまで含め、半導体とセンサーを一気通貫供給できる業界唯一の存在を目指す。競争力を強化し、市場占有率を高める。

車載カメラシステム向け半導体



リア・ビューカメラやサラウンドビュー用途から、ドライブレコーダーや電子ミラーに用途を拡大。先進運転支援システムの自動車への普及拡大に合わせ、販売数量増加を目指す。







IV 參考資料





会社名 Techpoint, Inc. (テックポイント・インク)

代表者 小里文宏 (こざとふみひろ)

本社住所 2550 N. 1st St., Suite 550 , San Jose, Ca. 95131 U.S.A.

設立 2012年4月11日 (2012年10月 研究開発開始)

株主資本 30,949千米ドル (2019年9月末現在)



拠点 サンノゼ、サンディエゴ、東京、深圳、台北、ソウル

従業員数 75名 (2019年9月末現在)

事業内容 監視(防犯)カメラシステムと車載カメラシステム向け
半導体の設計及び販売

監査法人 BDO International Ltd.

業績 売上高 31百万米ドル、当期純利益 1.88百万米ドル
(2018年12月期連結)





- 2012年 4月 カリフォルニア州法に基づき米国カリフォルニア州サンノゼ市に会社設立
- 10月 研究開発を開始
- 2013年 9月 HD監視カメラシステム事業への参入を目的として米国コネクサント社のSDI事業を買収
- 10月 サンディエゴ事務所開設（米国カリフォルニア州サンディエゴ市）
- 12月 中国事務所開設（中国広東省深圳市）
- 2014年 2月 韓国事務所開設（韓国京畿道城南市）
- 5月 独自規格のHD解像度クラスの映像送信用、受信用半導体HD-TVIを初出荷
- 2015年 11月 開発・技術サポート及び日本における人材確保を主な目的として、当社100%子会社である日本法人「株式会社テックポイントジャパン」を設立（東京都渋谷区）
- 2016年 1月 ■株式会社テックポイントジャパンの本店を移転（東京都港区）
■ISO9001規格及びISO14001規格合格
- 3月 ■車載向けAEC-Q100規格合格（該当製品名：TP2801及びTP2825）
■台湾事務所開設（台湾台北市）
- 4月 顧客、技術サポートを主な目的として、中国事務所を法人化し、当社100%子会社である中国法人「科点科技（深圳）有限公司」（テックポイントチャイナ）を設立（中国広東省深圳市）
- 2017年 7月 設立準拠法をデラウェア州法に変更
- 9月 当社JDR（日本版預託証券）が東京証券取引所マザーズ市場に上場



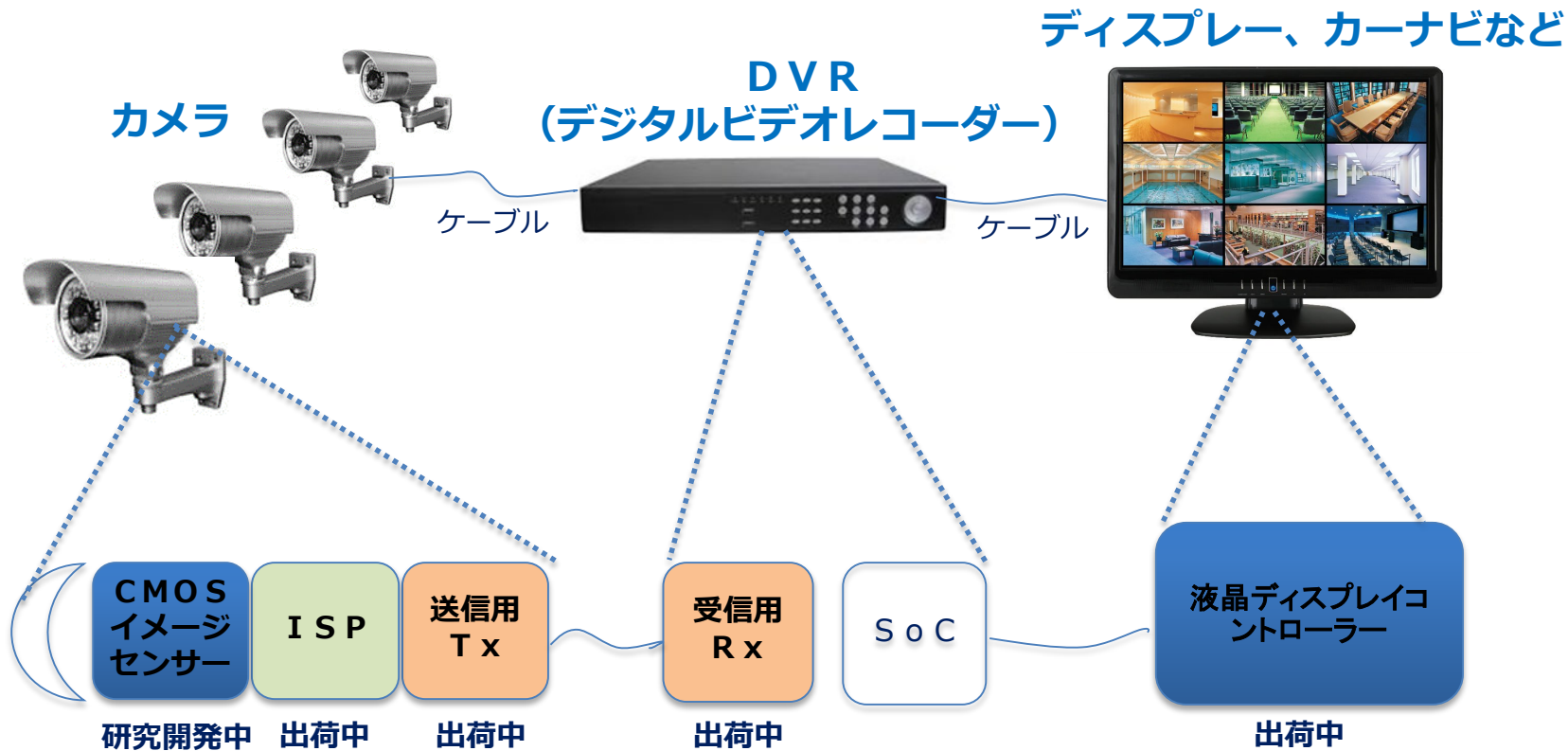


監視(防犯) カメラシステム及び車載カメラシステム向け 受送信半導体の開発及び販売

監視カメラシステム向け半導体

車載カメラシステム向け半導体







強み

弱み

「従来型SDアナログ伝送」(NTSC規格)



- ★低コスト
- ★映像の遅延が無い
- ★伝送距離が長い(350m)
- ★耐ノイズ性が高い

- 解像度が低い (VGAクラス)

「IP伝送」 (IPネットワークカメラ)



- ★解像度が高い (HD・4Kクラス)
- ★カメラ1台だけでもインターネットにつながる

- システム価格が高い
- 伝送距離が短い(100m)
- 不正アクセスの脅威がありセキュリティ対策が必要
- 映像の遅延がある

「HDアナログ伝送」(当社のHD-TVI)



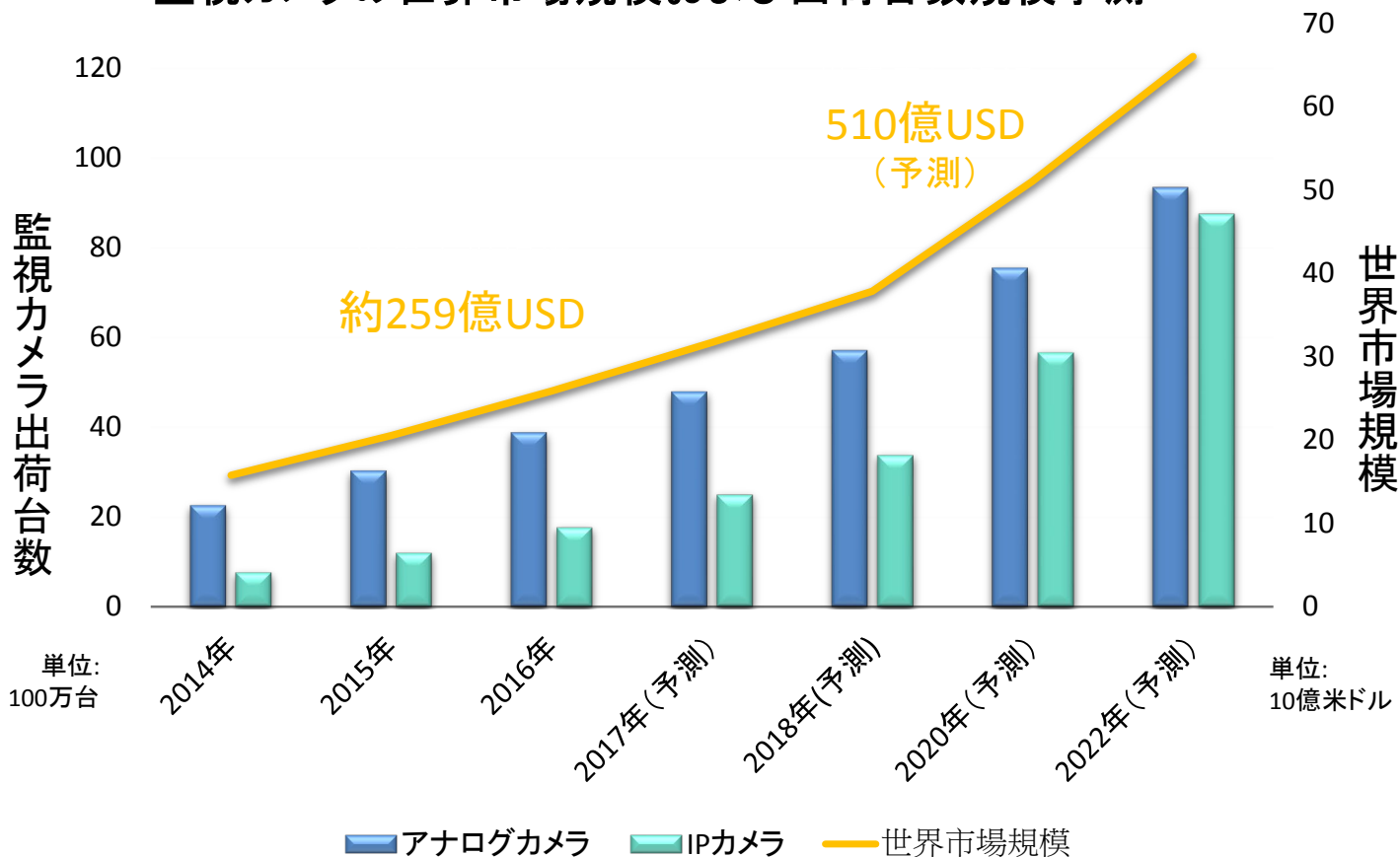
- ★低コスト
- ★解像度が高い (HD、4Kクラス)
- ★専用ケーブル不要
- ★映像の遅延が無い
- ★伝送距離が長い(800m)
- ★耐ノイズ性が高い

- 設置台数の柔軟性が低い (DVRは4チャンネル以上)

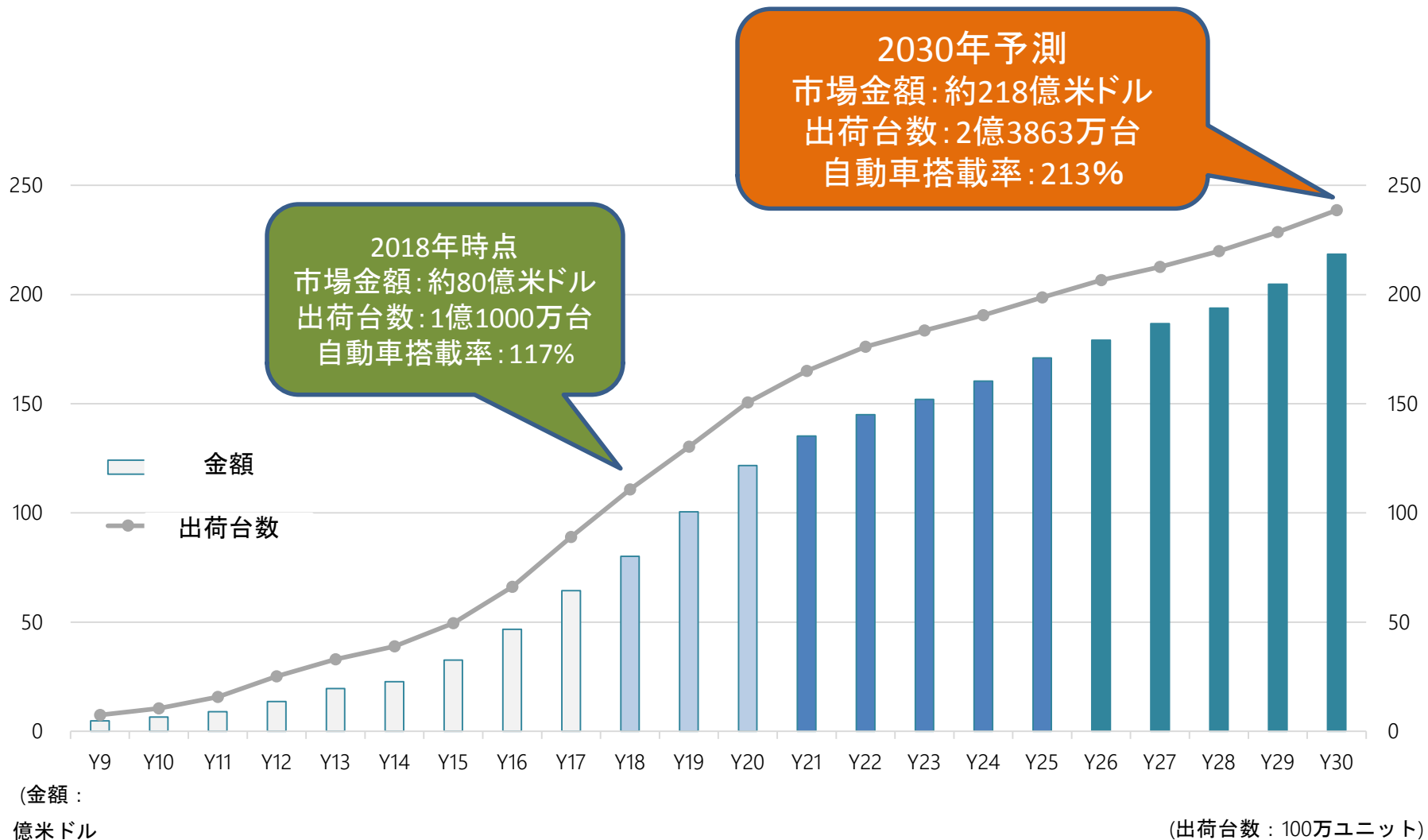




監視カメラの世界市場規模および出荷台数規模予測



米MarketsandMarketsの調査レポート
 「Video Surveillance Market Global Forecast to 2022」
 2017年3月より



出所: Techno Systems Researchの調査レポート
「Automotive Camera Market Analysis 2018」より当社作成





株価推移	2018年12月期	2019年12月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q
高値 (円)	2,615	1,129	893	860	
安値 (円)	450	507	585	638	
期末終値 (円)	553	754	637	769	

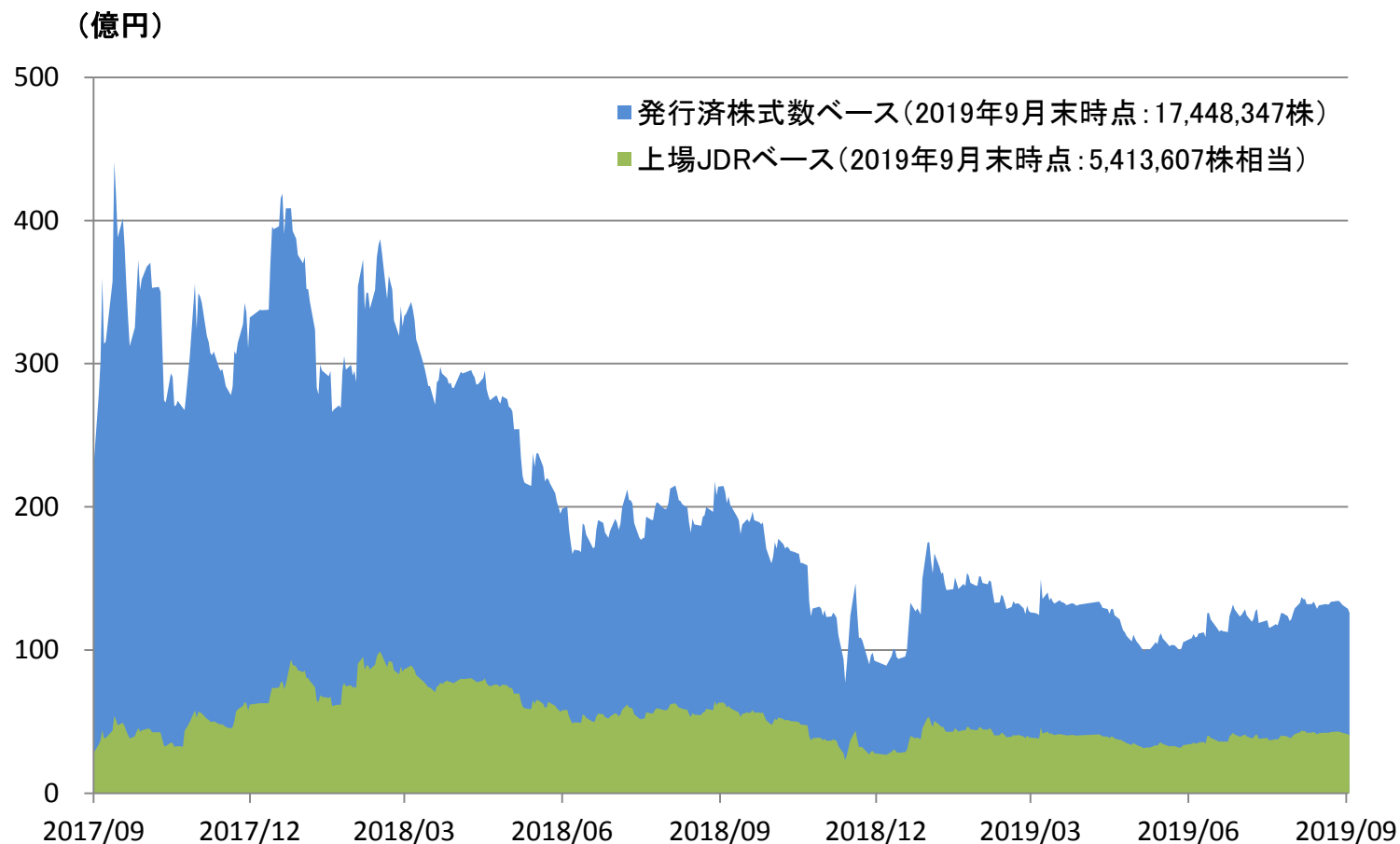
株価指標等 (発行済株式数ベース)	2018年12月期	2019年12月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q
時価総額 (億円)	92	126	106	128	
予想PER (倍)	50.3	62.8	53.1	64.1	
PBR (倍)	3.3	4.1	3.5	4.1	
ROE (%)	7.0	※一	※一	※一	

※ROEについては、四半期の利益では適正に算出できないため記載しておりません。

換算為替レート	2018年12月期	2019年12月期			
		1Q	2Q	3Q	4Q
USドル/日本円	111.00	110.99	107.79	107.92	

注：株価指標等はBloombergなどのデータを基に算出しています。





出所：Quick、Bloombergのデータより当社作成





本資料は、当社グループの企業情報の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する有価証券への勧誘を構成するものではありません。また、本資料の全部又は一部を当社グループの承諾なしに公表又は第三者に伝達することはできません。

本資料のうち、当社又は当社グループに関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき、本資料の作成時点における予測等を基礎としてなされたものであり、実際の結果は本資料の記載内容と大きく異なる可能性があります。

なお、本資料における記述は本資料の日付（又はそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本資料に記載されている当社グループの企業情報以外の情報は、当社が公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等については当社は何らの検証も行っておりません、また、これを保証するものではありません。

